

第4章

多摩・島しょ地域の 東京 2020 大会に関わる特性把握

1. 地域特性分析の枠組み
2. 分野別の地域特性分析結果
3. 地域特性を踏まえた東京 2020 大会への取組の基本的な方向性

- ◆「スポーツ・健康」分野では、道路や遊歩道、公園など身近な空間を活用したスポーツ・運動ができる場や機会を拡充していくことが考えられる。
- ◆また、競技会場の整備やソフト面での取組実績、大会を支えるボランティア活動、大会を盛り上げるためのイベント開催や情報発信のノウハウといった「スポーツ祭東京 2013」の様々なレガシーを活用して、大会等の事前キャンプ誘致にも取り組むことも考えられる。
- ◆「障がい者」分野では、パラリンピック大会の有する社会に変革をもたらす力を活かして、社会的包摂性を地域に普及・浸透させることが期待される。今後、パラリンピック大会の開催を機に注目が集まる障がい者の理解促進や社会参画の促進に重点的に取り組むことにより、その成功体験を通じて、より多様な人々への横断的な福祉政策へと展開していくことが考えられる。
- ◆「まちづくり」分野では、今後、高齢化が進む多摩・島しょ地域においても更なるバリアフリー化や安全・安心なまちづくりを推進する必要がある、必ずしも大規模な民間都市開発に依存せず実現していく仕組みづくりが必要である。大会への住民やNPO等の様々な主体の参画の気運を、このようなまちづくりの担い手としてつなげていくことが考えられる。
- ◆「文化・教育」分野では、多くの大学等が立地する地域特性を活かし、各大学等の有する人的資源や施設等を活用することが考えられる。とりわけ留学生の持つ語学力や出身国・地域の文化や習慣等に関する知識は貴重であり、大会に関連するボランティア人材の確保や育成にあたって活用していくことが想定される。
- ◆「経済・観光」分野では、現在、多摩・島しょ地域は外国人観光客の訪問率が低い、大会開催期間中は外国人等の観戦者による宿泊需要の受け皿となる可能性がある。同期間中に多摩・島しょ地域を訪れる外国人等に地域の魅力をアピールしていくためにも、地域資源の再発見・磨き上げが求められる。

1. 地域特性分析の枠組み

この章では、第3章の分析結果を踏まえ、①「スポーツ・健康」、②「障がい者」、③「まちづくり」、④「文化・教育」、⑤「経済・観光」のレガシー創出の5つの分野ごとに統計データや関連資料等により、多摩・島しょ地域の特性を把握する【図表 77】。

図表 77 地域特性の整理・分析の枠組み

分野	第3章の分析結果 (多摩・島しょ地域の取組の現状と課題)	地域特性分析の視点	
		中長期的な 地域課題	活用可能な 地域資源
①スポーツ・健康	<ul style="list-style-type: none"> ◆住民が日常的にスポーツや健康づくりを実施したくなるような取組が重要。中でも、ウォーキング・ジョギング・サイクリングは取組意向が高い。 ◆事前キャンプ誘致に際して、独自のルート開拓の方法等の情報収集が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■高齢化の現状と将来見込み 	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ・運動の実施環境 ●大規模なスポーツ大会の開催実績
②障がい者	<ul style="list-style-type: none"> ◆多くの住民が日常生活の中で障がい者と接する機会が少なく、障がい者に対する理解の必要性自体が十分に認知されていない。障がい者への理解を促進していく取組が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■社会的包摂性の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ●市町村における障がい者施策の蓄積
③まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆バリアフリーのまちづくりや防犯・防災などの安全・安心なまちづくりは、住民の日常生活に直結するため、大会を契機に進展することへの期待は高い。 ◆身近な環境を安全・安心で美しくしたいという住民の意欲を活かす視点が重要 	<ul style="list-style-type: none"> ■まちづくりの潮流 	<ul style="list-style-type: none"> ●NPO 活動の状況
④文化・教育	<ul style="list-style-type: none"> ◆大会ボランティア・都市ボランティアの落選者等を他の多様なボランティア活動へとつなげていく取組が必要 ◆ボランティア活動への取組意向を持たない住民にも関心を喚起するための取組が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■近年の大学の立地動向 	<ul style="list-style-type: none"> ●大学の集積状況
⑤経済・観光	<ul style="list-style-type: none"> ◆世界に向けて多摩・島しょ地域の魅力や文化をアピールする機会の創出への期待が高い。 ◆ホームステイ受入家庭と外国人観光客のマッチングを行うことで国際交流の促進につながる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■外国人観光客の地域への訪問状況 	<ul style="list-style-type: none"> ●来訪者の受入関連施設等の立地状況

2. 分野別の地域特性分析結果

(1) 「スポーツ・健康」分野に関する地域特性

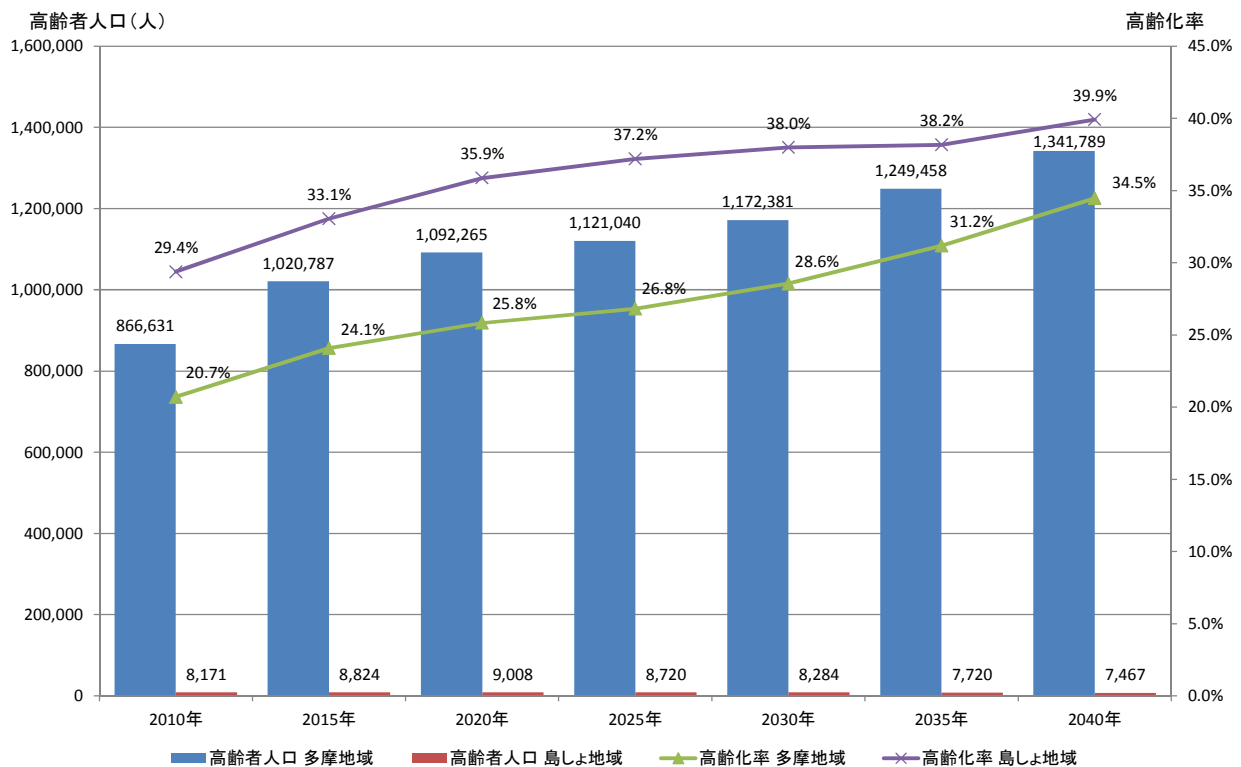
① 中長期的な地域課題

■ 地域住民の高齢化への対応

多摩地域の高齢者数は、2010年の86.7万人から2040年には134.2万人と約50万人増加することが見込まれている【図表78】。また、高齢化率も20.7%から34.5%と上昇する見込みであり、地域住民の3人に1人が高齢者となる。また、島しょ地域の高齢者数は2010年の8,171人から2040年には7,467人と減少するものの、高齢化率は29.4%から39.9%と上昇する見込みである。

こうした地域住民の高齢化に対応するため、健康の維持・増進、生きがいつくり、地域コミュニティの活性化などの効果が期待されるスポーツの力を一層活用する必要がある。東京2020大会に伴うスポーツや健康に対する気運の高まりを活かし、住民に身近な地域においてスポーツや運動に親しむ環境を整備し、健康的な生活を実現していくことが求められている。

図表 78 多摩・島しょ地域の高齢者数・高齢化率の推移



資料) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成25(2013)年3月推計)より作成

②活用可能な地域資源

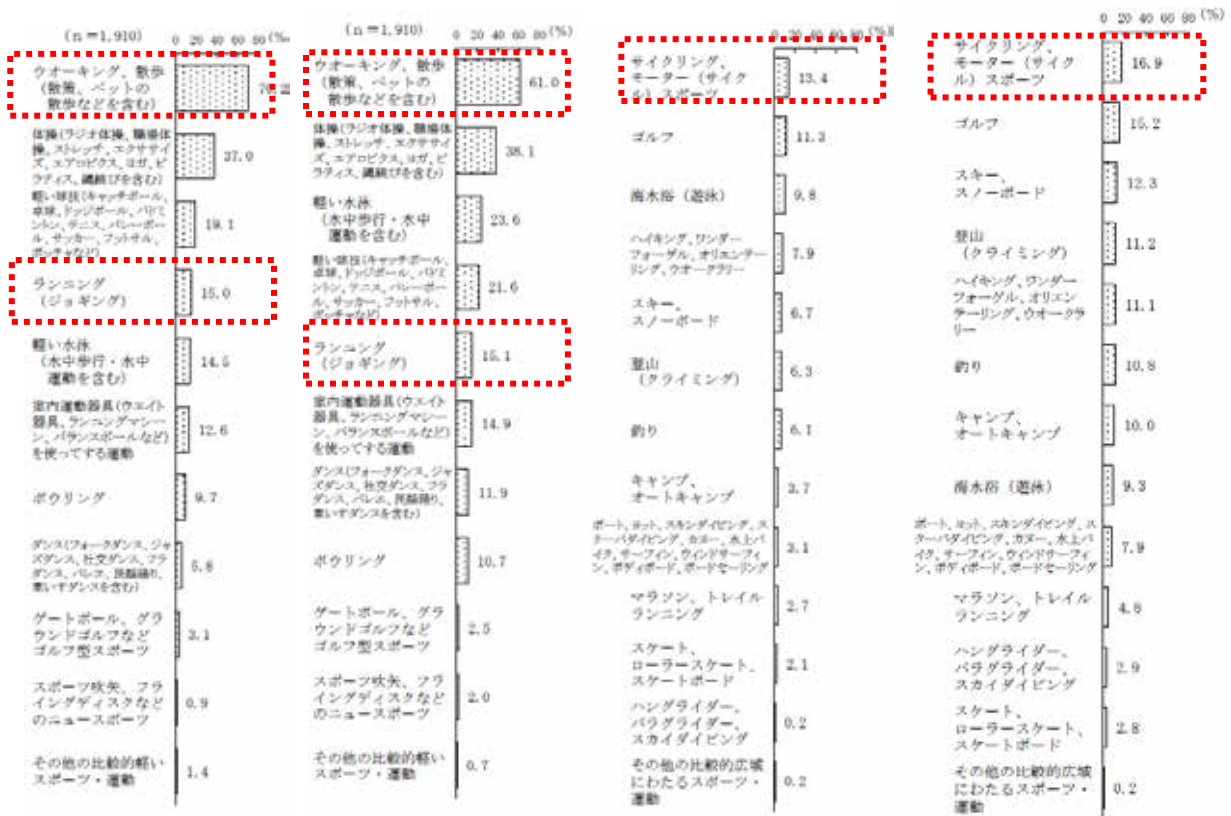
●スポーツ・運動の実施場所としての道路や遊歩道、公園など身近な空間の存在

ウォーキング、ランニング（ジョギング）、サイクリングは、都民に広く親しまれているスポーツ・運動であり、今後の実施ニーズも高い【図表 79】。多摩・島しょ地域では、道路や遊歩道、公園など身近な空間でスポーツ・運動が行われている【図表 80】。こうしたことから、東京 2020 大会の開催に向けたこの数年間は、多摩・島しょ地域の住民が日常生活の中でスポーツに親しみ、主体的に健康増進に取り組むことができる環境づくりを推進する好機であるといえる。

図表 79 都民のスポーツ・運動の実施状況

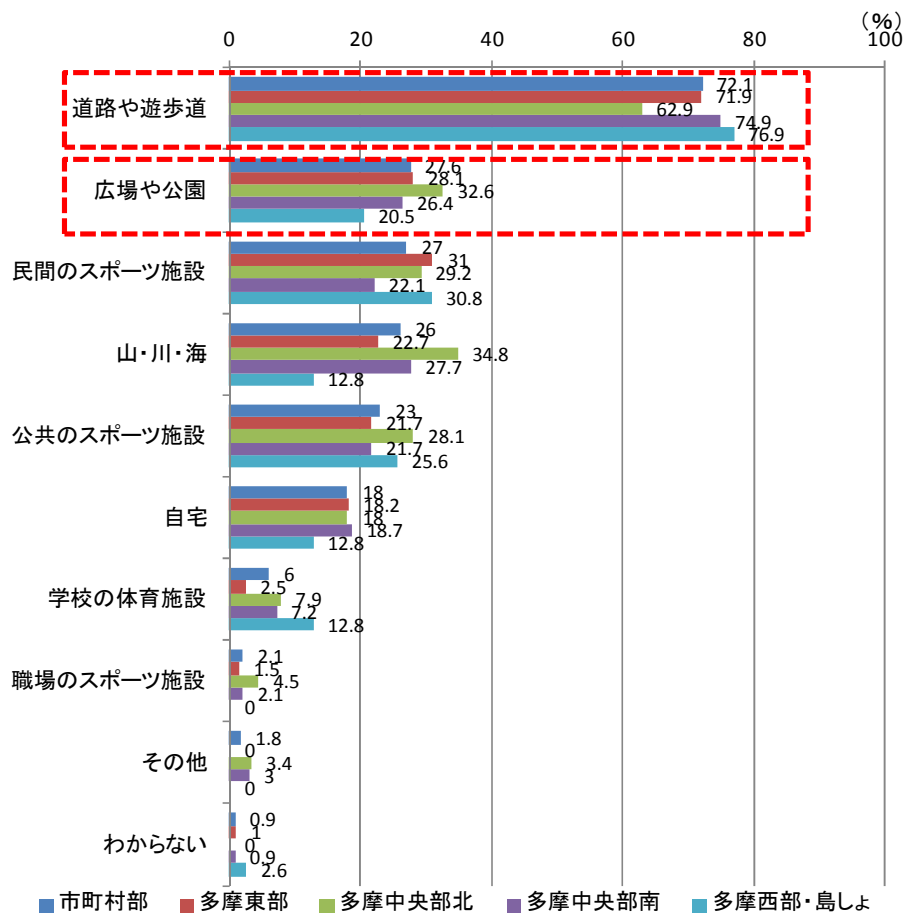
【比較的軽いスポーツ・運動】
 [直近 1 年間に行った] [今後実施してみたい]

【比較的広域にわたるスポーツ・運動】
 [直近 1 年間に行った] [今後実施してみたい]



資料) 東京都「都民のスポーツ活動に関する世論調査」(2015年2月)に加筆

図表 80 多摩・島しょ地域住民がスポーツ・運動を行った場所



注1) 多摩東部エリア : 武蔵野市、三鷹市、調布市、小金井市、小平市、東村山市、国分寺市、狛江市、清瀬市、東久留米市、西東京市

注2) 多摩中央部北エリア : 立川市、昭島市、福生市、東大和市、武蔵村山市、羽村市、瑞穂町

注3) 多摩中央部南エリア : 八王子市、府中市、町田市、日野市、国立市、多摩市、稲城市

注4) 多摩西部・島しょエリア : 青梅市、あきる野市、日の出町、檜原村、奥多摩町、大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村

資料) 東京都「都民のスポーツ活動に関する世論調査」(2015年2月)より作成

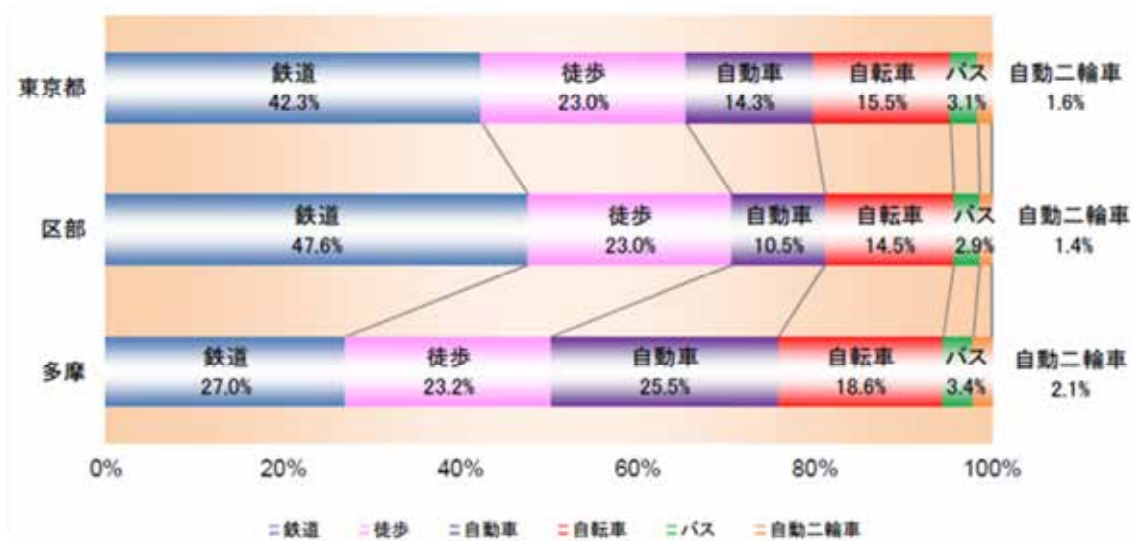
●活発な自転車利用と自転車走行空間の広域ネットワーク化の取組

平成 20 年の交通手段に占める自転車の割合をみると、多摩地域は 23 区よりも高く、自転車利用は活発である【図表 81】。

また、「10 年後の東京」計画に掲げた取組施策のうち、自転車走行空間整備に対する政策展開への関心は上位にあり、安全で快適な自転車走行環境に対する都民のニーズは高い【図表 82】。

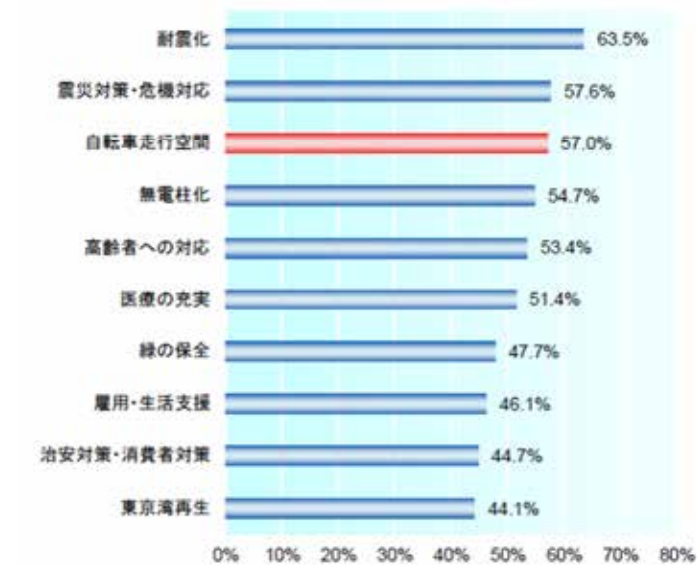
こうした状況のもとで、多摩地域において、一部の地域では自転車専用道路や自転車歩行者専用道路の整備が進められているほか、東京都や複数の市町村により通行サインの統一化の検討も行われている。さらに、東京都は平成 27 年 4 月に東京 2020 大会に向け都内の国道・都道・区市道等約 200km を「自転車推奨ルート」に位置付け、普通自転車専用通行帯（自転車レーン）や自転車ナビマーク・ナビラインの設置に取り組むこととしている。多摩地域では、武蔵野の森公園の周辺地区（府中市・調布市・三鷹市）が選定されており、自転車走行空間の広域ネットワーク化に向けた取組が進められつつある【図表 83】。

図表 81 東京都における平成 20 年の交通手段に占める自転車の割合



注) 東京都発（着地は都外も含む。）と東京都着（発地は都外も含む。）を対象として集計資料）東京都市圏交通計画協議会「第 5 回東京都市圏パーソントリップ調査」（平成 20 年）出典）東京都「東京都自転車走行空間整備推進計画」（2012 年 10 月）

図表 82 「10年後の東京」における政策展開への関心



資料) 東京都文化局「都政モニターアンケート」(2011年12月)

出典) 東京都「東京都自転車走行空間整備推進計画」(2012年10月)

図表 83 「自転車推奨ルート」における自転車空間整備の方針と武蔵野の森周辺地区のルート図



資料) 東京都「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた自転車推奨ルートの取組について」(2015年4月)

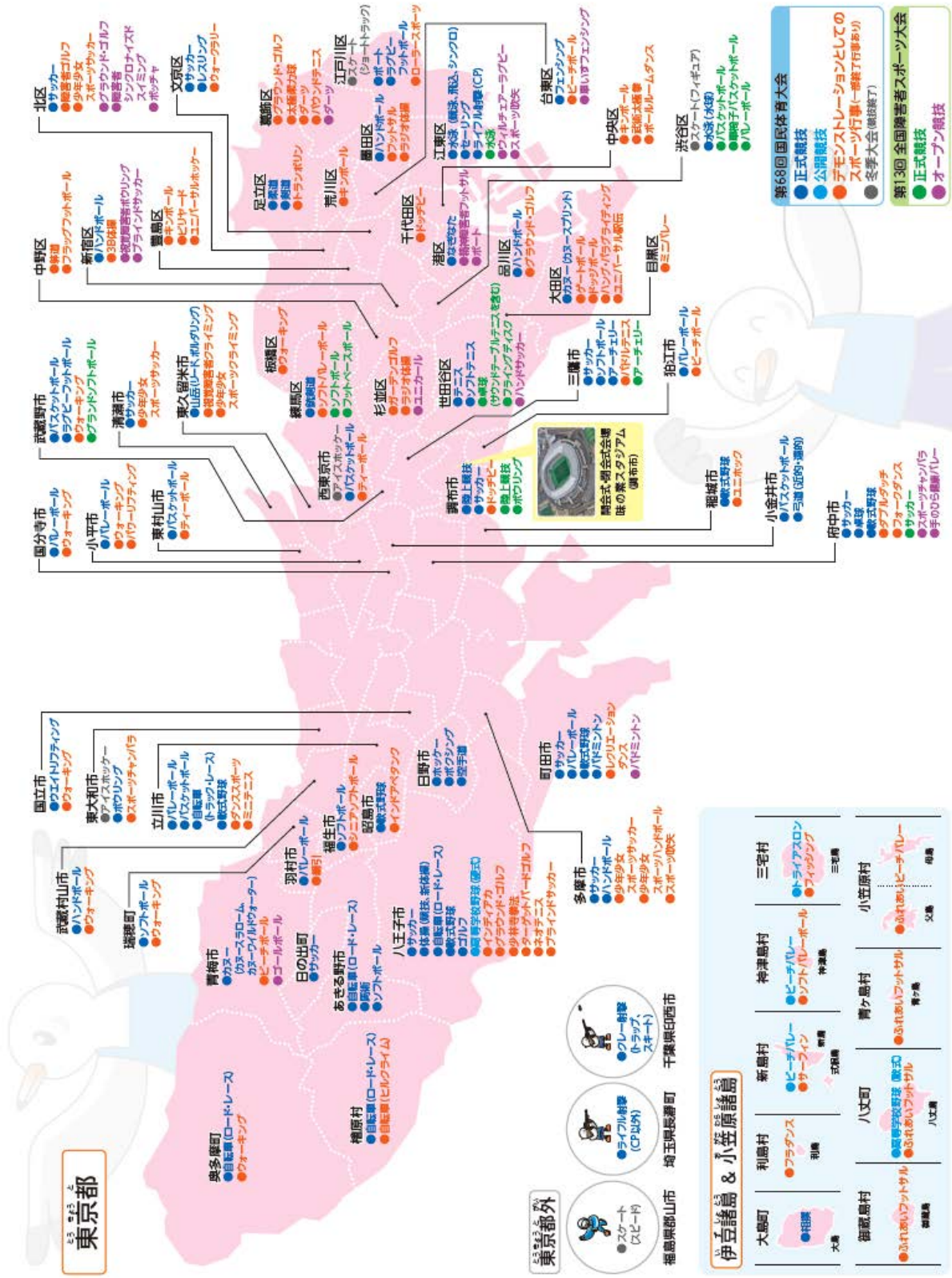
●「スポーツ祭東京 2013」のレガシー

2013年に多摩・島しょ地域では、「第68回国民体育大会」と「第13回全国障害者スポーツ大会」（併せて「スポーツ祭東京 2013」）が開催されている。多くの市町村で競技やスポーツ行事等が開催され、中には複数の市町村にまたがって開催する競技もみられた【図表 84】。競技開催地となった市町村は、大会運営と併せ、自市町村やこれまでの連携の枠を超えた横断的かつ多層的な運営を行い、競技運営とおもてなしのソフト事業の両面において取組実績を残した。また、大会運営ボランティア、情報支援ボランティア、映像配信ボランティア、広報ボランティア、選手団サポートボランティアなど、延べ3万人のボランティアがスポーツ祭東京 2013を支えた。

さらに開催期間中には様々なイベントが開催され、スポーツ祭東京 2013の盛り上げに貢献した。例えば、国民体育大会（9月28日～10月8日）と全国障害者スポーツ大会（10月12日～14日）との間をつなぐ3日間には、「障害のある人もない人も一緒にスポーツを楽しもう！」というコンセプトのもと、「東京ユニバーサルスポーツ3 days」と題するイベントが実施された。味の素スタジアムに隣接した「ゆりーと広場」では、全国から訪れる選手や関係者、観客へのおもてなしとして、都内のご当地グルメの販売や多彩なステージイベント、多摩エリアの自然を体感できる木こり体験教室など、様々なイベントが開催された。総合開会式の後には、東日本大震災の復興支援を目的に「復興祈願 東北六大祭り in 東京」が行われ、東北を代表する6つの伝統的なお祭りのダイナミックなパレードに、6,500人を超える観客が沸いた。

スポーツ祭東京 2013から3年が経過したが、そのレガシーとも言える競技会場やソフト面の取組実績、大会を支えるボランティア活動、大会を盛り上げるためのイベント開催や情報発信のノウハウは、東京 2020大会に向けた取組においても活用可能である。

図表 84 「スポーツ祭東京 2013」の競技会場マップ



資料) 東京都「スポーツ祭東京2013実行委員会事務局」ウェブサイト

(2)「障がい者」分野に関する地域特性

①中長期的な地域課題

■社会的包摂性の醸成

社会的包摂性（ソーシャル・インクルージョン）とは、障がい者、高齢者、子ども、ひとり親家庭、低所得者・失業者などの要援護者（生活に困難を抱えている人々）が、社会から孤立せずに、労働や地域活動などを通じて社会に参加し、それぞれが社会の構成員として支え合うことができるようにすることを指す。1980年代以降、欧州を中心に社会福祉政策において重視されるようになった概念である。

我が国の社会福祉政策においても、こうした考え方にに基づき、要援護者の就労や地域活動への参画など、自立した個人として互いに支え合い、共に暮らせるための取組が重視されるようになってきている。

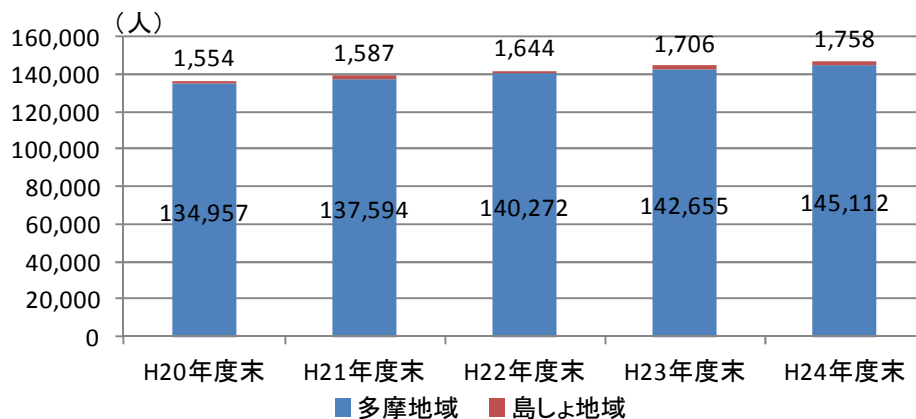
パラリンピック大会は、障がい者がスポーツに親しむきっかけとなるだけでなく、障がい者がその能力を生かし、自らの行動を決し、そして夢を追い続けることができる社会づくりにつながるなど、社会に変革をもたらす力を有する。こうした力を活用して、社会的包摂性を地域に普及・浸透させることが期待される。

②活用可能な地域資源

●市町村における障がい者施策の蓄積

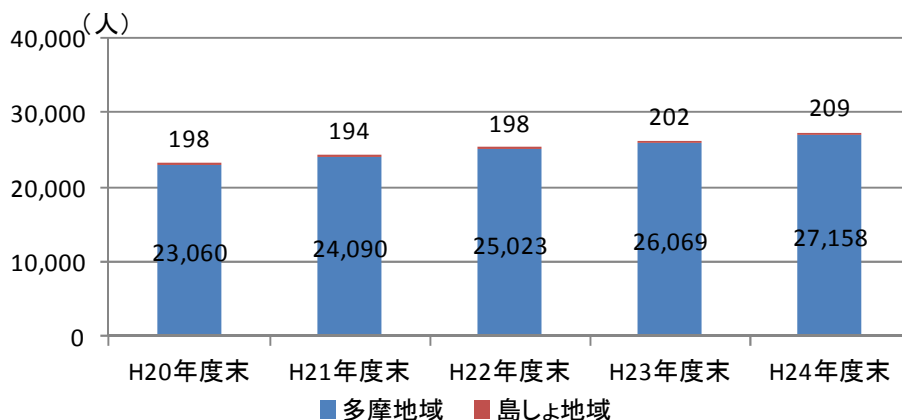
市町村の福祉政策においては、現状では障がい者や高齢者など対象別・制度別に施策が実施されることが多い。多摩・島しょ地域における障がい者数は、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに増加傾向【図表 85～87】にあり、今後、パラリンピック大会の開催を機に注目が集まる障がい者の社会参画の促進に、重点的に取り組むことで、その成功体験を通じた、より多様な人々への横断的な福祉政策の展開が期待されている。

図表 85 多摩・島しょ地域における「身体障害者手帳」交付数の推移



資料) 東京都「東京都統計年鑑」より作成

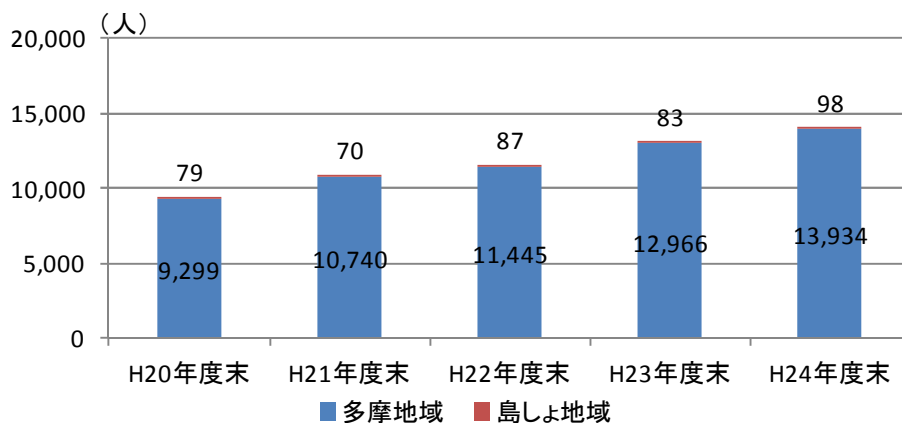
図表 86 多摩・島しょ地域における「愛の手帳」交付数の推移



注釈) 「愛の手帳」は、東京都愛の手帳交付要綱に基づき、知的障害者(児)の保護及び自立更生の援助を図るとともに、知的障害者(児)に対する社会の理解と協力を深めるために知的障害の方に交付される手帳

資料) 東京都「東京都統計年鑑」より作成

図表 87 多摩・島しょ地域における「精神障害者保健福祉手帳」交付数の推移



資料) 東京都「福祉・衛生 統計年報」より作成

(3)「まちづくり」分野に関する地域特性

①中長期的な地域課題

■高齢化社会に対応したバリアフリー化や安全・安心なまちづくりを実現する仕組みづくり

東京 2020 大会の開催にあたっては、多くの選手や観客が国内外から訪れる。そのため誰もが快適に大会を楽しんでもらえるようバリアフリー化を推進するとともに、安全・安心への備えを万全にし、世界一安全な都市東京を世界に発信していくことが求められる。

東京 23 区では、東京 2020 大会の開催を契機として競技施設が集積される湾岸エリアを中心に大規模な都市開発が多く進められている。一方、多摩・島しょ地域では、競技施設である武蔵野の森総合スポーツ施設を除くと、東京 2020 大会の開催を契機とした都市開発はそれほど多くない。このため都市開発と連動したバリアフリー化や安全・安心なまちづくりを進めることに多くを期待することはできない。

しかし、バリアフリー化や安全・安心なまちづくりは、今後も高齢化が進む多摩・島しょ地域においては更なる推進が必要であり、大規模な民間都市開発に依存せずに実現していく仕組みづくりが課題である。

②活用可能な地域資源

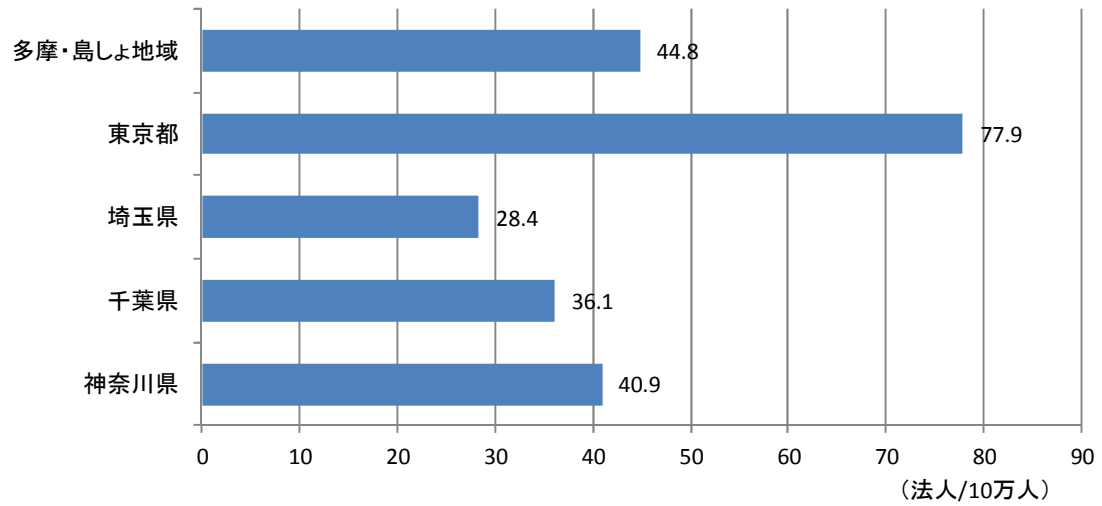
●活発なNPO活動

オリンピック・パラリンピック大会は一義的にはスポーツの祭典であり、参加するアスリートのための大会である。一方、大会のために来往した世界中の人々をもてなすのは、開催都市・開催国の人々である。東京 2020 大会は単に楽しむだけでなく、人々がそれぞれの方法で参画することが重要となる。また、そうすることにより、東京 2020 大会が人々の心に長く残る歴史的な大会となる。

東京 2020 大会への参画の気運を多摩・島しょ地域においても醸成し、高めていくことが必要であることは言うまでもないが、こうした気運をまちづくりへの参画意識へとつなげていくことも重要である。

多摩・島しょ地域の人口 10 万人あたりのNPO法人数が埼玉県、千葉県、神奈川県を超えるなど、多摩・島しょ地域はNPO活動が比較的活発な地域である【図表 88】。一方で、多摩・島しょ地域での競技開催は限られていることから、NPOをはじめとする様々な関係主体と連携して身近な地域で住民が参加することができる様々なイベント等の機会を創出することにより、地域の一体感を醸成しコミュニティの活性化につなげていく取組も必要である。また、そうした取組の継続がきっかけとなり、高齢化社会に対応したバリアフリーや安全・安心なまちづくりをより強力に進めていく仕組みが形成されていくことが期待される。

図表 88 人口 10 万人あたりの N P O 法人数



注 1) N P O 法人数は、主たる事務所の住所より整理したもの (平成 27 年 12 月現在) である。

注 2) 平成 27 年 4 月現在の住民基本台帳に基づく総人口

資料) 内閣府「N P O 法人情報」等より作成

(4)「文化・教育」分野に関する地域特性

①中長期的な地域課題

■大学の都心回帰等による「多摩ブランド」の喪失危機

多摩地域では工場等制限法の影響などにより都心での大学等の校舎の新設・拡充が困難であったため、1970年代以降、私立の大規模総合大学の多摩地域への移転が始まった。地価が安く広大な空間と快適な自然環境などを求めて学部の新設や大学等の一部移転などが進められてきた。1978年には中央大学が、都心に本部を置いていた大学としては初めて大学本部も含めて多摩地域へ移転した。それ以降、徐々に郊外へ全面移転する大学等が増えていった。しかし、近年は少子化による大学全入時代を迎え受験生を確保するため、交通アクセスが良い都心にキャンパスを移転する大学が増えている。例えば、中央大学は2022年に法学部を多摩キャンパス(八王子市)から東京都心の後樂園キャンパス(文京区)に移転する方針を明らかにしている。

大学等の減少は地域経済にとって大きな痛手であるだけでなく、「キャンパス都市」、「学園都市」と言われてきた多摩地域の都市ブランド喪失にもつながり、懸念されるところである。

②活用可能な地域資源

●大会を契機としたボランティア文化の定着可能性

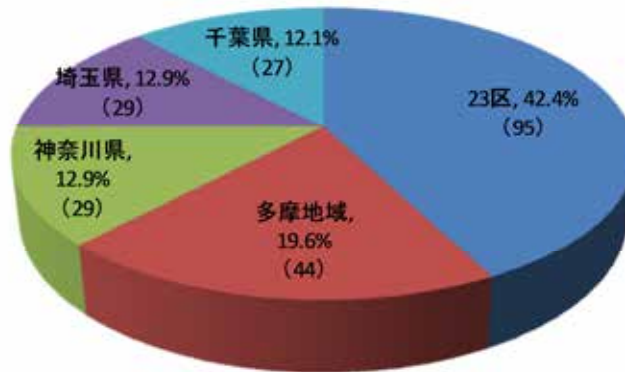
オリンピック・パラリンピック大会は、ボランティア文化を定着させる絶好の機会となる。英国では、ロンドン2012大会開催後の2012年から2013年にボランティア活動が増加し、2005年以降の減少傾向に歯止めがかかった。このことから多摩・島しょ地域においても、東京2020大会を契機としてボランティア活動を活発化させ、ボランティア文化として定着させることができる可能性がある。

●大会開催に向けた大学等の人的資源や施設

2014年6月23日にTOCOGと全国の大学・短期大学は連携協定を締結した。この連携協定は、オリンピック・パラリンピック大会への出場を目指すアスリートの輩出、スポーツを支えるトレーナー、栄養士、また大会開催時のボランティアの育成、事前キャンプ地等に活用することができる練習施設の提供等での協力を目的としたものである。

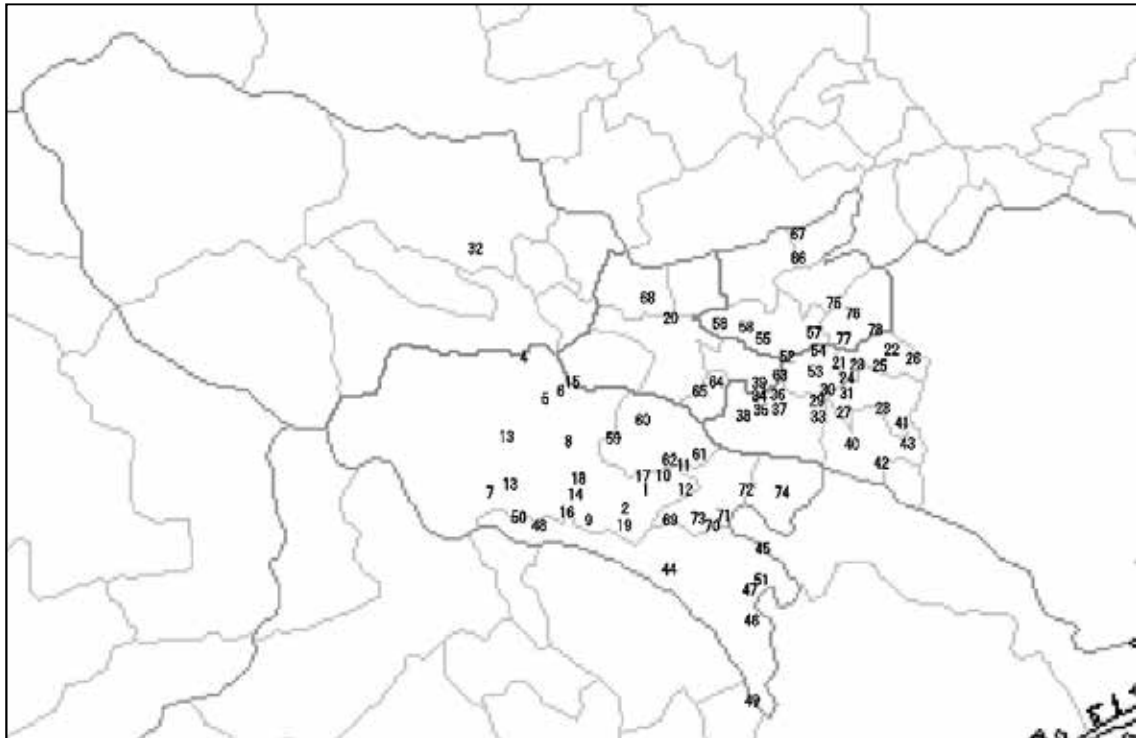
多摩地域には、44の大学が本部を設置しており、これは埼玉県(29校)、千葉県(27校)、神奈川県(29校)に本部を置く大学数をそれぞれ上回る集積規模と言える【図表89】。東京2020大会に向けた取組にあたっては、多くの大学等が立地する地域特性【図表90・91】を活かし、大学の参画を得て、各大学の有する人的資源や施設等を活用していくことが重要である。とりわけ、東京2020大会に関連するボランティア人材の確保や育成にあたって、留学生の持つ語学力や出身国・地域の文化や習慣等に関する知識は貴重であり、こうした人的資源やノウハウをボランティア文化の定着に向けて有効活用していくことが望ましい。また、こうした取組を進めることで、多摩地域独自の大学文化を維持し充実させていくことが可能になると考えられる。

図表 89 1都3県に本部を設置する大学の地域別内訳



資料) 文部科学省「学校基本調査」(平成 25 年度)より作成

図表 90 多摩地域における大学施設の立地状況



資料) 各大学ウェブサイトより作成

図表 91 多摩地域に立地する大学施設一覧

市町村名	No.	大学名	市町村名	No.	大学名	
八王子市	1	東京農工大学（フィールドミュージアム多摩丘陵）	調布市	40	電気通信大学	
	2	首都大学東京 南大沢キャンパス(都市教養学部ほか)		41	白百合女子大学	
	3	共立女子大学（八王子キャンパス）		42	東京慈恵会医科大学（国領キャンパス）	
	4	杏林大学（保健学部ほか:八王子キャンパス）		43	桐朋学園大学	
	5	工学院大学（八王子キャンパス）	町田市	44	桜美林大学(町田キャンパス)	
	6	創価大学		45	国土館大学（町田キャンパス）	
	7	拓殖大学（八王子キャンパス）		46	昭和薬科大学	
	8	多摩大学（八王子サテライト）		47	玉川大学	
	9	多摩美術大学（八王子キャンパス）		48	東京家政学院大学(町田キャンパス)	
	10	中央大学(多摩キャンパス)		49	東京女学館大学(2013年度より募集停止)	
	11	帝京大学(八王子キャンパス)		50	法政大学（多摩キャンパス）	
	12	デジタルハリウッド大学（八王子制作スタジオ）		51	和光大学	
	13	東京医科大学（八王子医療センター）		52	東京学芸大学	
	14	東京工科大学(八王子キャンパス)		小金井市	53	東京農工大学（工学部ほか:小金井キャンパス）
	15	東京純心女子大学	54		法政大学（工学部・情報科学部:小金井キャンパス）	
	16	東京造形大学	小平市	55	一橋大学（小平国際キャンパス）	
	17	東京薬科大学		56	嘉悦大学	
	18	日本文化大学		57	津田塾大学(小平キャンパス)	
	19	ヤマザキ学園大学(南大沢キャンパス)		58	武蔵野美術大学(鷹の台キャンパス)	
立川市	20	国立音楽大学	日野市	59	首都大学東京 日野キャンパス(システムデザイン学部)	
武蔵野市	21	亜細亜大学		60	実践女子大学	
	22	成蹊大学		61	杉野服飾大学（日野キャンパス）	
	23	日本獣医生命科学大学		62	明星大学(日野校)	
	24	日本赤十字看護大学（武蔵野キャンパス）	国立市	63	東京経済大学(国分寺キャンパス)	
	25	武蔵野大学（三鷹サテライト教室）		64	一橋大学(国立キャンパス)	
	26	武蔵野美術大学（吉祥寺キャンパス）		65	東京女子体育大学	
三鷹市	27	東京大学（附属天文学教育研究センター）	清瀬市	66	日本社会事業大学	
	28	杏林大学(医学部:三鷹キャンパス)		67	明治薬科大学	
	29	国際基督教大学	武蔵村山市	68	東京経済大学（武蔵村山キャンパス）	
	30	東京神学大学		69	大妻女子大学（社会情報学部ほか:多摩キャンパス）	
青梅市	31	ルーテル学院大学	多摩市	70	恵泉女学園大学	
	32	明星大学（青梅校）		71	国土館大学（多摩キャンパス）	
府中市	33	東京外国語大学(府中キャンパス)	多摩市	72	多摩大学(多摩キャンパス)	
	34	東京農工大学		73	東京医療学院大学	
	35	東京農工大学（農学部ほか:府中キャンパス）		稲城市	74	駒沢女子大学
	36	東京農工大学（附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター）	75		東京大学（生態調和農学機構）[西東京フィールド]	
	37	東京農工大学（フィールドミュージアム府中）	西東京市		76	東京大学（田無演習林）
	38	東京農工大学（フィールドミュージアム本町）			77	武蔵野大学(武蔵野キャンパス)
	39	東京農工大学（附属栄町研究圃場）		78	早稲田大学（東伏見キャンパス）	

資料) 各大学ウェブサイトより作成

(5)「経済・観光」分野に関する地域特性

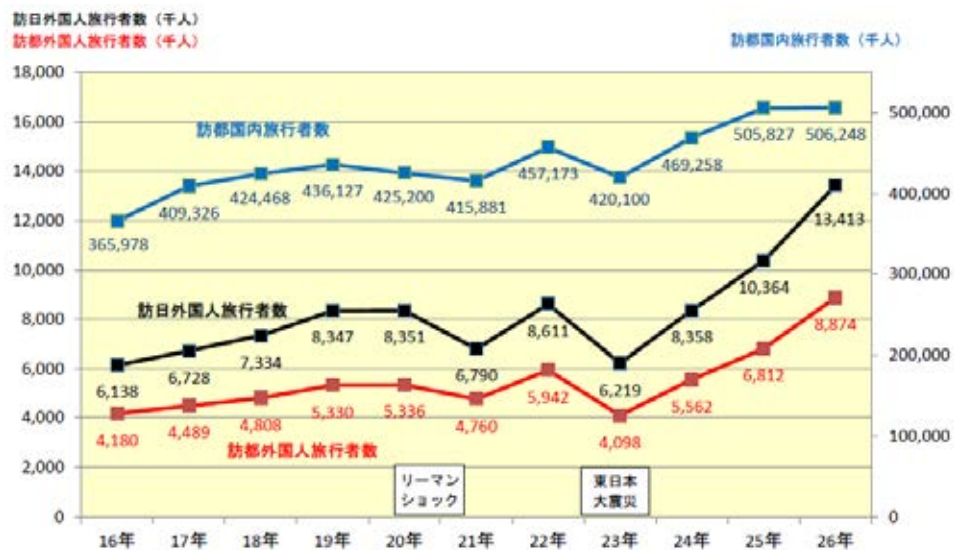
①中長期的な地域課題

■多摩・島しょ地域への外国人観光客の誘致

近年、我が国を訪れる外国人旅行者数が急増している。こうした背景の中、訪都外国人旅行者数は過去10年間で大幅に増加した【図表92】。

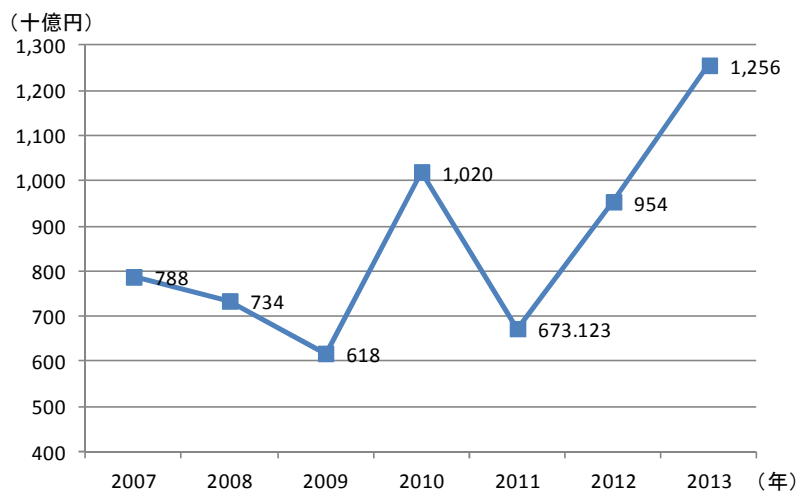
2013年、訪都外国人観光の生産波及効果は約1.3兆円と推計されている【図表93】。東京2020大会の開催に向けて東京を訪れる外国人はさらに増加すると考えられ、それによる波及効果も一段と拡大すると期待される。

図表92 訪日・訪都外国人旅行者数及び訪都国内旅行者数の推移



資料) 東京都「訪日・訪都外国人旅行者数及び訪都国内旅行者数の推移」

図表93 訪都外国人観光の生産波及効果の推計



注釈) 「生産波及効果」とは、需要が変化した場合にその需要をまかなうために必要な生産の波及を推計したものを指す。

資料) 東京都「東京都観光客数等実態調査」より作成

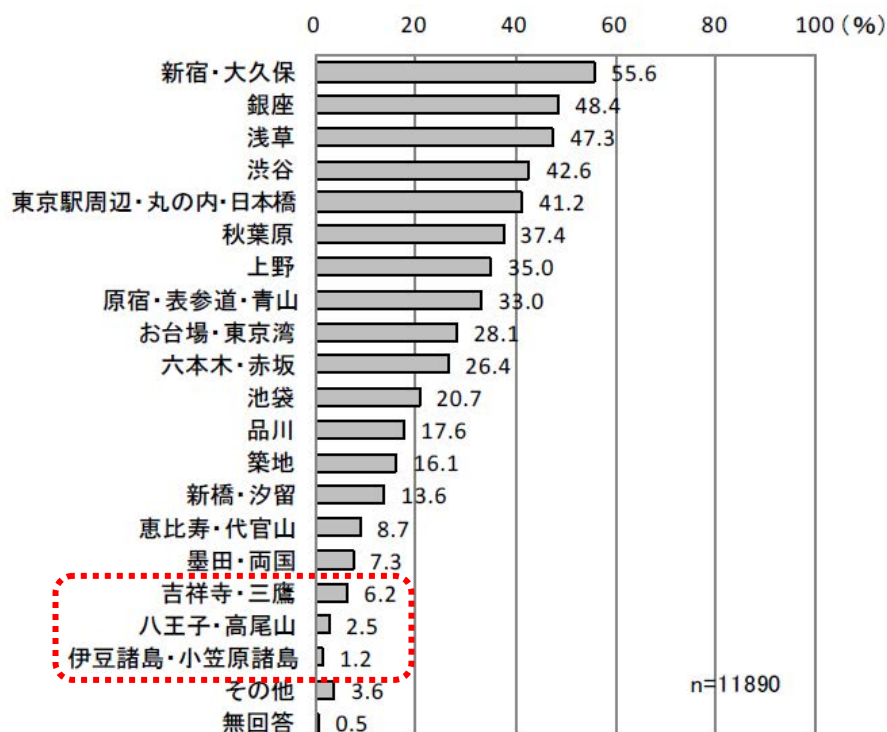
訪都外国人観光客は主として 23 区内で行動しており、多摩・島しょ地域への訪問率は低い状況にある。これは高尾山や三鷹の森ジブリ美術館など一部の観光資源を除き、多摩・島しょ地域のほとんどの観光資源が海外で知られていないためと推察される【図表 94】。

このため、東京 2020 大会を機に都内を訪れる外国人観光客に対して、多摩・島しょ地域の魅力をアピールし、地域への来訪を促すことが求められる。

■多摩・島しょ地域に宿泊する外国人観光客の地域内消費の促進

市町村へのヒアリング調査によれば、近年、多摩・島しょ地域でもスポット的に外国人観光客が増加しているエリアがみられる。例えば、八王子市では、高尾山が 2007 年にミシュラン三つ星に選ばれてから外国人観光客が増加しており、市内のビジネスホテルに宿泊するケースが増えている。また、福生市では、秋葉原など都心部で買い物を楽しみ、翌日に富士山への登山を予定するバスツアーに参加する外国人観光客が、中央自動車道の途中にある福生駅前のホテルに宿泊するケースがみられる。しかし、両市において、宿泊客がホテルの外での飲食や買い物等を楽しむ事はほとんどみられず、地域経済への波及効果は少ない状況である。このことから、多摩・島しょ地域に宿泊する外国人観光客が当地域内において、飲食・買い物等の消費活動を行うよう促す取組方策が求められる。

図表 94 訪都外国人観光客が訪問した場所（複数回答）



資料) 東京都「平成 25 年度国別外国人旅行者行動特性調査」に加筆

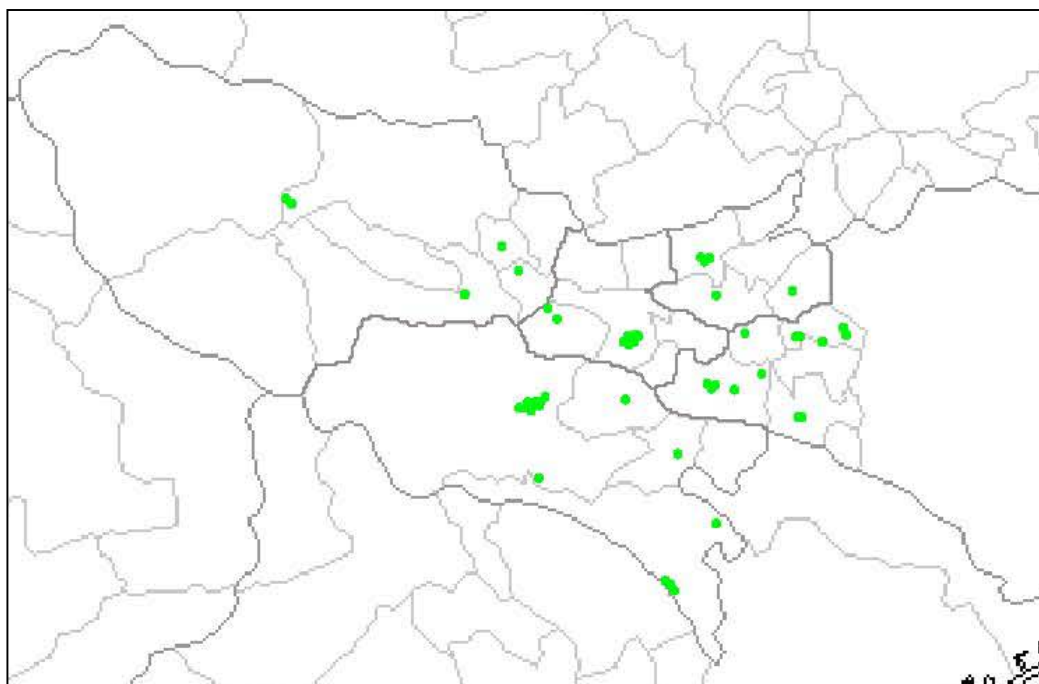
②活用可能な地域資源

●大会期間中の宿泊需要の受け皿としての可能性

多摩・島しょ地域には約 100 のホテルが立地している【図表 95・96】。多摩地域では、八王子市、立川市、府中市、町田市に比較的多くのホテルが立地している。島しょ地域では、八丈町において立地が多い。

観光庁「平成 27 年版観光白書」によれば、「都市圏では、訪日外国人旅行者の宿泊増加による客室稼働率の上昇が顕著になっており、特に東京においては設備投資も活発で、2015 年において客室数を相当数増加させる見通しで、その動きは都心部から郊外へと広がりを見せている」状況となっている。多摩地域でも、近年、外国人宿泊者が増加しているホテルがみられる。多摩・島しょ地域に立地するホテルは、競技開催地へのアクセスの良さから、大会開催期間中も国内外からの観戦客の宿泊需要の受け皿となる可能性がある。

図表 95 多摩・島しょ地域における主なホテルの立地状況



資料) Yahoo!ビジネストラベルウェブサイトより作成

図表 96 多摩・島しょ地域に立地する主なホテル

市町村名	ホテル名	市町村名	ホテル名
八王子市	R&Bホテル 八王子	調布市	ホテルリブマックス調布駅前
	京王プラザホテル八王子		調布クレストンホテル
	ザ・ビー八王子		ホテルノービス調布
	三恵シティホテル八王子		調布アーバンホテル
	サンホテル八王子		ホテル・ツインズ調布
	八王子アーバンホテル	町田市	ホテル町田ヴィラ
	マロウドイン八王子		東横イン町田駅小田急線東口
	八王子スカイホテル		ビジネスイン サンホテル
	セントラルホテル八王子		ホテルリソル町田
	八王子ホテルニューグランド		フレックスティイン町田
	シーズイン八王子		ホテルザ・エルシィ町田
	ホテル グランSPA		東京・湯河原温泉 万葉の湯
立川市	東横イン立川駅北口		ホテルダイヤモンド鶴川
	立川ワシントンホテル		ホテル新宿屋
	ホテルメッツ立川		ラクシオ・イン
	立川ホテル	小金井市 旅館 二幸	
	立川グランドホテル	小平市 ビジネスホテルー茶	
	パレスホテル立川	小平市 ビジネスホテルー茶 別館	
	ホテルロイヤルオーセンティック	日野市 シティホテル高幡	
	立川リージェントホテル	日野市 富士旅館	
	ホテルレックス立川	東村山市	ホテルメッツ久米川
	ビジネスホテルほまれ		久米川ビジネスイン純和
	立川アーバンホテルアネックス (別館)		ホテルセントピア
	立川アーバンホテル		ビジネスホテル マーキュリー
商人ゆうだち	久米川ウイングホテル		
昭和ホテル	国分寺市 ホテルメッツ国分寺		
武蔵野市	吉祥寺東急REIホテル(旧 吉祥寺東急イン)	福生市 東横イン福生駅前東口	
	リッチモンドホテル東京武蔵野	多摩市 京王プラザホテル多摩	
	吉祥寺第一ホテル	多摩市 スマイルホテル東京多摩永山	
	ビジネスホテル シティテル武蔵境	多摩市 多摩アカデミーヒルズ	
	ホテルメッツ武蔵境	羽村市 ホテルリブマックス東京羽村駅前	
三鷹市	三鷹シティホテル	羽村市 ホテルサーティマイルズ	
青梅市	コンフェスタイン河辺	あきる野市 東横イン東京秋川駅北口	
	藤本荘	あきる野市 油屋旅館	
	神乃家 山楽荘	西東京市 田無第一ホテル	
府中市	憩山荘	大島町 マンダリンアイランドホテル	
	ホテル武蔵野の森 (調布・府中)	大島町 湯の宿くるみや	
	ホテルコンチネンタル	大島町 パームビーチリゾートホテル	
	マロウドイン東京	新島村 喜平丸	
	ビジネスホテル シティテル府中	八丈町	八丈島プチホテル満天望
	ビジネス・イン・グランドール府中		シェルトーン
	府中アーバンホテル		ペンション・ビーチタイム
	府中アーバンホテル別館		ホテル リード・アズーロ
	ホテル中央館		総合釣りセンターアサギク
	ビジネスホテルサンライト本館		ハッチージョーズホステル
	ホテルリブマックス府中		リードパークリゾート八丈島
	ホテルリブマックス府中アネックス		八丈ビューホテル
	ビジネスホテルサンライト別館		八丈島パークホテル
	HOTEL松本屋1725		ペンションブルーマーリン
	昭島市	ホテルS&Sモリタウン	リゾートシーピロス
フォレスト・イン昭和館 (オークラホテルズ&リゾート)			
ビジネスホテル オーク昭島			

(資料) Yahoo!ビジネストラベルウェブサイトより作成

●大会期間中に開催される夏祭り

東京 2020 大会が開催される7月から9月までの期間中、多摩・島しょ地域では、例年多くの夏祭りが開催される【図表 97】。祭りは地域や日本の伝統文化として外国人の評価も高く、大会開催に合わせてタイミングよく地域の魅力を伝えられる地域資源として活用できる可能性が高い。

図表 97 2015年7月から9月上旬までに開催された主な多摩・島しょ地域の祭りや集客イベント

イベント	開催地	実施期間
機守神社例祭式典	八王子市	7/4
八王子・夏の風物市	八王子市	7/4~7/5
ほおずき市	八王子市	7/9~7/10
特別展「戦後70年昭和の戦争と八王子」	八王子市	7/22~9/30
第30回平和展 ~こどもたちに伝えたい この想い~	八王子市	7/30~8/3
だんご祭り	八王子市	7/31~8/1
第57回立川まつり 国営昭和記念公園花火大会	立川市	7/25
みたか商工まつり	三鷹市	7/18~7/19
深大寺鬼燈まつり	調布市	7/18~7/20
第37回小金井阿波おどり大会	小金井市	7/25~7/26
第15回ひのよさこい祭	日野市	7/26
国立まと火	国立市	7/19
狛江古代カップ第25回多摩川いかだレース記念大会	狛江市	7/19
きよせの環境・川まつり	清瀬市	7/26
まろにえびよびよコンサート	東久留米市	7/4
ニューススポーツデー	東久留米市	7/11・8/8・9/12
第3回稲城ふれあい保健・医療まつり	稲城市	7/26
あさがお・ほおずき市	羽村市	7/4~7/5
はむら夏まつり	羽村市	7/25~7/26
祝 あきる野市制施行20周年 第31回あきる野映画祭	あきる野市	7/18
五日市百日紅まつり(セレモニー)	あきる野市	7/31
五日市百日紅まつり(ライトアップ)	あきる野市	7/31~9/30
五日市百日紅まつり(流し踊り)	あきる野市	8/23
西東京市冒険物語「いこいーなをさがせ！」	西東京市	7/21~8/31
トレジャーハンター8	西東京市	7/25~8/30
ひので夏まつり	日の出町	7/25
八王子花火大会	八王子市	8/1
夕やけ小やけふれあいの里七夕まつり	八王子市	8/1~8/9
八王子まつり	八王子市	8/7~8/9
第27回立川よいと祭り	立川市	8/1
三鷹阿波踊り	三鷹市	8/22~8/23
第67回青梅市納涼花火大会	青梅市	8/1
第14回野川灯籠流し ~東日本震災被災者追悼~	調布市	8/19
映画のまち調布“夏”花火2015~第33回調布市花火大会~	調布市	9/22
深大寺夕涼みの会	調布市	8/29~8/30
小金井薪能	小金井市	8/23
灯りまつり	小平市	8/1
ブルーベリーまつり	小平市	8/8
平櫛田中彫刻美術館 ナイトミュージアム	小平市	8/29
第65回福生七夕まつり	福生市	8/6~8/9
市制施行45周年記念事業狛江市民花火大会	狛江市	8/5
第11回平和市民のつどい	東大和市	8/15
清瀬ひまわりフェスティバル	清瀬市	8/16~8/30
障害児のつどい お日さまサンサンフェスティバル	東久留米市	8/21
第37回武蔵村山市観光納涼花火大会	武蔵村山市	8/29
観蓮会	羽村市	8/1
第13回あきる野夏まつり	あきる野市	8/1
第13回ヨルイチ	あきる野市	8/29
しょうが祭	八王子市	9/4~9/5
踊れ西八夏まつり	八王子市	9/5~9/6

資料) 東京都ウェブサイトより作成

3. 地域特性を踏まえた東京 2020 大会への取組の基本的な方向性

これまでに整理した地域特性を踏まえ、多摩・島しょ地域における東京 2020 大会に向けた取組の基本的な方向性をレガシー創出の 5 つの分野別に導出する【図表 98】。

(1) 「スポーツ・健康」分野

高齢化に伴い、住民の健康の維持・増進が中長期的な課題となっている。多摩地域では、体育・スポーツ施設以外でも道路や遊歩道、公園など身近な空間でスポーツ・運動が実施されている。また、自転車利用が比較的活発であり、自転車走行空間の広域ネットワーク化の取組も進められている。こうしたことから、大会に向けた取組の方向性として、身近な空間を活用したスポーツ・運動ができる場や機会を拡充していくことが考えられる。また、「スポーツ祭東京 2013」のレガシーとも言える競技会場やソフト面での取組実績や、大会を支えるボランティア活動、大会を盛り上げるためのイベント開催・情報発信のノウハウなどを活用して、東京 2020 大会等の事前キャンプ誘致に取り組むことも想定される。

(2) 「障がい者」分野

パラリンピック大会の有する社会に変革をもたらす力を活用して、社会的包摂性を地域に普及・浸透させることが期待される。一方、市町村の福祉政策においては、現状では障がい者や高齢者など対象別・制度別に施策が実施されることが多い。今後、パラリンピック大会の開催を機に注目が集まる障がい者の理解促進や社会参画の促進に重点的に取り組むことで、その成功体験を通じて、より多様な人々への横断的な福祉政策へと展開していくことが期待される。

(3) 「まちづくり」分野

バリアフリー化や安全・安心なまちづくりは、今後、高齢化が進む多摩・島しょ地域においても推進が必要であり、大規模な民間都市開発に依存せず実現していく仕組みづくりが必要である。また、大会開催期間中は、多くの観戦客が多摩・島しょ地域に訪れることが想定され、来訪者視点のまちづくりも求められる。このため、活発な NPO 活動を背景として、住民や NPO 等と連携した来訪者視点のまちづくりを推進することが重要である。そうした取組の継続により、高齢化社会に対応したバリアフリーや安全・安心なまちづくりをより強力に進めていく担い手や仕組みが生まれることが期待される。

(4) 「文化・教育」分野

大学の都心回帰等により、「キャンパス都市」、「学園都市」と言われてきた“多摩ブランド”の喪失が懸念されている。多くの大学等が立地する地域特性を活かし、各大学等の有する人的資源や施設等を活用していくことが重要である。とりわけ留学生の持つ語学力や出身国・地域の文化や習慣等に関する知識は貴重であり、大会に関連するボランティア人材の確保や育成にあたっての活用が想定される。

(5) 「経済・観光」分野

多摩・島しょ地域への外国人観光客の訪問率は低いが、大会期間中の宿泊需要の受け皿としての可能性がある。宿泊等のため大会期間中に多摩・島しょ地域を訪れる外国人等に地域の魅力をアピールしていくためにも、地域資源の再発見・磨き上げが求められる。

図表 98 地域特性を踏まえた東京 2020 大会への取組の基本的な方向性

分野	多摩・島しょ地域の取組の現状と課題【再掲】	地域特性		地域特性を踏まえた大会への取組の基本的な方向性
		中長期的な地域の課題	活用可能な地域資源	
	第3章より導出	第4章 2. より導出		
① スポーツ・健康	<ul style="list-style-type: none"> ◆住民が日常的にスポーツや健康づくりを実施したくなるような取組が重要。中でも、ウォーキング・ジョギング・サイクリングは取組意向が高い。 ◆事前キャンプ誘致に際して、独自のルート開拓の方法等の情報収集が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域住民の高齢化への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ・運動の実施場所としての道路や遊歩道、公園など身近な空間の存在 ●活発な自転車利用と自転車走行空間の広域ネットワーク化の取組 ●「スポーツ祭東京 2013」のレガシー 	<ul style="list-style-type: none"> ★道路や遊歩道、公園など身近な空間を活用したスポーツ・運動ができる場や機会の拡充 ★「スポーツ祭東京 2013」のレガシーを活用した事前キャンプ誘致
② 障がい者	<ul style="list-style-type: none"> ◆多くの住民が日常生活の中で障がい者と接する機会が少なく、障がい者に対する理解の必要性自体が十分に認知されていない。障がい者への理解を促進していく取組が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■社会的包摂性の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ●市町村における障がい者施策の蓄積 	<ul style="list-style-type: none"> ★障がい者に対する理解促進
③ まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆バリアフリーのまちづくりや防犯・防災などの安全・安心なまちづくりは、住民の日常生活に直結するため、大会を契機に進展することへの期待は高い。 ◆身近な環境を安全・安心で美しくしたいという住民の意欲を活かす視点が重要 	<ul style="list-style-type: none"> ■高齢化社会に対応したバリアフリー化や安全・安心なまちづくりを実現する仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ●活発なNPO活動 	<ul style="list-style-type: none"> ★住民やNPO等と連携した来訪者視点のまちづくりの促進
④ 文化・教育	<ul style="list-style-type: none"> ◆大会ボランティア・都市ボランティアの落選者等を他の多様なボランティア活動へとつなげていく取組が必要 ◆ボランティア活動への取組意向を持たない住民にも関心を喚起するための取組が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■大学の都心回帰等による多摩ブランドの喪失危機 	<ul style="list-style-type: none"> ●大会を契機としたボランティア文化定着の可能性 ●大学等の人的資源や施設 ●「スポーツ祭東京 2013」のレガシー〔再掲〕 	<ul style="list-style-type: none"> ★大学等と連携した地域で活躍するボランティアの確保・育成
⑤ 経済・観光	<ul style="list-style-type: none"> ◆世界に向けて多摩・島しょ地域の魅力や文化をアピールする機会の創出への期待が高い。 ◆ホームステイ受入家庭と外国人観光客のマッチングを行うことで国際交流の促進につながる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■多摩・島しょ地域への外国人観光客の誘致 ■多摩・島しょ地域に宿泊する外国人観光客の地域内消費の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ●大会期間中の宿泊需要の受け皿としての可能性 ●大会期間中に開催される夏祭り 	<ul style="list-style-type: none"> ★住民等と連携した地域の魅力や宝の再発見の促進 ★宿泊客等を対象とした地域資源のアピール

